

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立落合第三小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和7年11月25日】

授業作り	重点	探究的な学びの定着やタブレット端末の活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現。
環境作り		視覚に訴える教材・教具を工夫し、全ての児童が安心して学習に取り組める環境を整える。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none">・話す人の方を見て、話を聞く習慣を身に付ける必要がある。・少人数で話し合う活動や発表の場を意図的に設定する必要がある。・文や文章を書く場面を意図的・計画的に設定する必要がある。・操作活動を計画的に取り入れる必要がある。	<ul style="list-style-type: none">①児童に即した課題の設定②デジタルドリルの活用③自分の考えや意見を発表する場の設定④ペア学習または、グループ学習の設定⑤まとめ、振り返りと次時の見通し
2 学 年		<ul style="list-style-type: none">・話題に沿って話し合うことができるように、少人数で話し合う活動や発表の場を意図的に設定する必要がある。・文や文章を書く場面を意図的・計画的に設定する必要がある。・基礎・基本の学習を充実させる必要がある。・ICT機器を活用し、絵や図などを使って視覚的に理解できる提示を、計画的に取り入れる必要がある。	<ul style="list-style-type: none">①児童に即した課題の設定②デジタルドリルの活用③自分の考えや意見を発表する場の設定④ペア学習または、グループ学習の設定⑤まとめ、振り返りと次時の見通し
3 学 年	<ul style="list-style-type: none">・つながりのある文章や、自分の気持ちを書き表することができるよう指導する必要がある。・繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法に加え、九九を用いての乗法・除法について理解できるよう指導する必要がある。・文章問題を理解して立式することについて指導する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・目的を明確にし、最後まで大事なことを聞き落とさないようにしながら、話を聞くことができるように指導する。・語と語や文と文との続き方に注意すること、事実と考えを書き分けることができるように指導する。・文章問題を理解し、なぜその立式ができるのかを説明する場面を意図的に設定し、分かりやすく相手に伝えるための表現方法について指導する。	<ul style="list-style-type: none">①児童間で適切に質問したり、意見を言ったりする活動の意図的な設定②他教科における関連した文章表現の継続的な指導③デジタルドリルの活用④ペア学習、グループ学習の設定⑤授業終わりの振り返りの活用
4 学 年	<ul style="list-style-type: none">・つながりのある文章や、自分の気持ちを書き表することができるよう指導する必要がある。・繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法の計算法について理解できるよう指導する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・目的を明確にし、最後まで大事なことを聞き落とさないようにしながら、話を聞くことができるように指導する。・語と語や文と文との続き方に注意すること、事実と考えを書き分けることができるように指導する。	<ul style="list-style-type: none">①適切に質問したり、意見を言ったりする活動の意図的な設定②他教科における関連した文章表現の継続的な指導③デジタルドリルの活用④ペア学習、グループ学習の設定

	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を理解して立式することについて指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の定着を図る。 文章問題を理解し、なぜその立式ができるのかを説明する場面を意図的につくり、分かりやすく相手に伝えるための表現方法について指導する。 	⑤授業終わりの振り返りの活用
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識を活用する力を向上させる必要がある。 叙述に沿って、作者の考えや、登場人物の気持ちと場面の様子を読み取る力の向上が必要である。 構成する要素に着目して、作図する技能を高める力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の定着を図る。 学習規律を守って学習に取り組む姿勢を育てる。 様々な図書に親しみ読書する習慣を身に付けるとともに語彙を増やす指導をする。 生活体験につながる数学的活動を増やす。 	①デジタルドリルの活用 ②学習規律の徹底 ③文のつながりを意識した論理的文章表現の指導 ④ペア学習、グループ学習の設定 ⑤読書活動の充実 ⑥三角定規、コンパスの活用 ⑦授業終わりの振り返りの活用
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字や筆算等の基礎的・基本的な知識・技能について、定着率を向上させる必要がある。 自身の考えを、相手に伝わるような形で文章表現する力の向上が必要である。 算数科では、既習の学習内容の定着に課題があるため、定期的に既習内容に立ち戻って確認することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリル等を活用し、既習事項の定着を図る。 文章を書く機会を増やし、考えをまとめて書く指導を繰り返し行っていく。 根気よく取り組む姿勢、最後まで正確に問題を読み取る指導をする。 	①デジタルドリルの活用 ②活用を意識した教科横断的な指導 ③思考したことを適切に表現する場を意図的に設定 ④授業終わりの振り返りの活用
特 別 支 援			